

令和4年度 公明党 行政調査報告書

1 調査年月日

令和4年7月22日(金)

2 調査項目及び調査地

【調査項目】

雪対策について

【調査地】

北海道 岩見沢市

3 議員名

齊藤 佐知子

相馬 芳佳

裏 君子

徳田 哲

奥野 妙子

4 調査報告書

別紙のとおり

5 その他

江別市議会公明党 行政調査報告書

調査日時 令和4年7月22日15時～16時30分

調査地 岩見沢市 市役所

調査項目 雪対策について

- ・全体的な雪対策事業について
- ・所管を超えた連携状況について
- ・除雪作業と排雪作業との関係について
- ・市民の声、要望等にどう応えているのか
- ・他市でやっていない特徴的な雪対策などがあれば、その状況について
- ・作業員の確保、人材育成について
- ・民間の間口排雪を行っている事業者との対応(連携)について

報告者 相馬 芳佳

《岩見沢市の概要》

1. 地名の由来

アイヌ語の地名が多い北海道において、数少ない和名の都市。明治11年に幌内煤田を開採のため、開拓使が札幌～幌内間の道路開削に当たり、工事従事者のために今の岩見沢市の北部に休泊所を設け、ここでゆあみをして疲れをいやした。当時の人にとって、唯一の憩いの場として「浴澤」(ゆあみさわ)と称し、これが転嫁して「岩見澤」(いわみさわ)と呼ばれるようになったと言われている。

2. 概要

広々とした公園や農地が多く、ゆったりと過ごせる。子育ても安心でき岩見沢市が北大 COI とともに取り組んできた「日本で一番母子にやさしい 市民が主役のまちづくり」が、母子健康調査に基づく低出生体重児の減少や在宅での妊産婦健診システムの確立などを評価され、昨年10月「プラチナ大賞(総務大臣賞)」を受賞。

基幹産業は農業で、市域の西側には石狩川が生んだ肥沃な土壌に広大な水田や畑が広がり、また市域東側の丘陵地には「りんご」や「ぶどう」などの果樹園が連なる。直売所もあちこちにあり、新鮮で美味しい旬の野菜や果物が身近で手に入る。

年平均気温は 8.3 度。最高気温は 32.1 度、最低気温はマイナス 16.6 度。真夏でも 30 度に届かない日がほとんど。過ごしやすい気候。年間降雪量は 723cm。最深積雪は 132 cm。降雪量が多いが、雪の降った日はほぼ毎日、除雪作業を行っており、市外から来られた方からも「除雪が上手」とお褒めの言葉。(気象庁「過去の気象データ」(2018 年))

人口 76,753 人(男 35,884 人 女 40,869 人)(令和4年 12 月 31 日現在)
世帯数 41,021 世帯。
市の面積 約 481 km²

岩見沢市の除排雪について

降雪の推移 平成 23 年度に 3 月末の降雪量は 1019 cm を記録する。この時に自衛隊要請し連日 TV 放映された程被害が甚大であった。その後、657, 496, 717, 712, 504 cm と推移し、令和 2 年度に再び 944 cm を記録する。およそ 10 年に一度大雪に見舞われるかと思うとの担当者の言葉。平成 23 年度は、片側 1 車線となり、20 km 以上の渋滞となる。道路脇は 4m 近くの雪山になる。災害派遣となり、独居老人の除雪対応を実施。

以上の被害を受けて

岩見沢市が行っている道路除排雪は

新雪除雪 ・降雪量が 10 cm 以上予測されるとき

- ・作業完了目標時刻午前 7 時
- ・午前 1～2 時頃から順次出動

路面修正 ・路面が轍状で交通障害が予測

- ・気温上昇や降雨で通行支障の事態が予測

拡幅除雪 ・道路幅員が狭く、通行に大きな支障を及ぼす事態が予測されるとき

(除雪車 5～6 時間稼働しなければならないので、業者の判断で出動する)

市道延長 1098 km のうち 913 km を除雪(※市道のうち複数の住宅が接道する公共性が高い道路 49 km とあわせている)

岩見沢市が行っている道路(車道)除雪延長は 962 km、歩道の除雪延長は 142 km、ちなみに江別市は 734 km である。

R4 一般会計予算の総額は 484 億円、うち除雪に係る予算は約 14 億 4 千万円。大雪の R2 は 28 億円かかっている。

人口 77375 で割ると市民一人当たりの除排雪予算は約 18600 円となる。

◎除排雪体制・・・現在は全て業者委託

◎車道除雪は、市内を 12 工区に分けて共同企業体に発注。これを会社(業者)数にすると 38 社。雪の降った朝は、約 180 台の除排雪が一斉に出動する。

岩見沢市の除排雪の特長

1. 全庁体制による除排雪対策本部を設置
2. 24 時間の電話受付体制

3. 除雪工区から独立した直轄機動班を編成
4. 効率よく効果的な運搬排雪を実施
5. 地域や中心商店街との協働
6. 総合的な雪対策の推進

R3 年度オペレーターは、60 歳以上が 20%、50 歳以上の割合が約 50%を占め担い手不足が問題である。その解決策として ICT を活用している。ベテランのオペレーターの軌跡を記録し技術の継承。タブレットアプリを R3 より検証中であり、魅力がある仕事となるよう考えていきたいとの言葉あり。

上記特長の詳細は次のとおり。

1. 全庁体制による除排雪対策本部を設置

H10 年度よりスタート。毎年 11 月に業務発令して立ち上げ、全庁体制による除排雪対策本部が別室に設置される。R3 年度の本部は 69 名体制。市長を本部長、副本部長に両副市長と教育長、事務局長は建設部長とし、常勤事務局に 19 名、非常勤事務局に 46 名が連なる。(非常勤事務局大雪になると招集される)

2. 24 時間の電話受付体制

◎冬だけ専用の電話回線を設置

◎通常 22 口(職員が対応するのが特徴)、夜間は 2 口(業者委託)大雪時は早朝から本部職員が集合し、状況に応じて非常勤職員も参集される。

4. 効率よく効果的な運搬排雪を実施

①運搬排雪専用の雪堆積場(雪捨て場)を各所に設置。排雪計画路線の近くに雪堆積場を確保し、特に市庁舎を中心に半径 5 km 以内に 9 箇所あり、必要なダンプトラック台数を削減している。

②市道を通行止めにして昼間中心の運搬排雪を実施。前日の昼に路線を決定し、住宅地のすぐそばの雪捨て場も活用。除雪、排雪は重ならないよう別々に発注。ダンプトラックの確保(国道・道道の排雪は夜間に実施)

5. 地域や中心商店街との協働

①地域自主排雪(R3 は 41 町会で約 225 km)町会などが自分の区域内の生活道路を自主的に排雪、市は作業の一部(積み込み作業・誘導員等)を支援している。

②地域除雪センターの設置。町会と除雪業者が会館に詰め地域の苦情対応、住民自治が進んでいる一部の地域(3 地区)で開設されている。開設に係る費用は市が自治会に助成しているが、苦情は市に直接来るのが多いため、効果は疑問視。

③中心商店街は独自の体制、商工会議所が中心となり 4 倍位の量で実施。グレードアップされている。

6. 総合的な雪対策の推進

- ・R3には高齢者世帯等支援実施調査している。14班42体制で3日間、2486世帯調査のうち17世帯を支援している。除排雪部隊とは別途で職員が支援。空き家対応もできる。本部が設置されたことで、情報が速やかに行き渡るようになった。
- ・情報提供ではメールサービスで送り、フェイスブックを毎日更新することで、道外に住む家族も見ることができる。また、パソコン等が使用できない市民には公共施設の玄関に大型モニターを設置して公開している。市民全体には「冬のくらしガイドブック」を全戸配布。また、ダウンロードも可。
- ・除排雪に関する苦情件数は、平成23年度に5311件を数え、次の年度からは2000件未満となり降雪量が少なかった令和元年度には337件であった。しかし、10m近い降雪となった令和2年度には4797件を受けている。
- ・除排雪に関わる補助制度
 - ◎地域自主排雪支援制度は町内会の生活道路の排雪作業を支援
 - ◎町内会除雪ボランティア(主体は社会福祉協議会)で、除雪弱者に対する支援を町内会に依頼
 - ◎高齢者世帯等冬のくらし支援事業を設置。屋根の雪下ろし(R3 358件)、間口除雪(R3 405件)、定期排雪(R3 56件)のメニューがある。

視察を終えて

今冬の降雪は、江別市民に災害ともいえる被害と雪に対する不安を市民に与えた。この対処に、様々な第7波のコロナ禍で、感染数が増大する中、快く会派視察を受けてくださった事が、大変有難かった。

隣市であり、通勤通学や買い物等でも普段から密接なつながりがある岩見沢であるが、市民の声から大雪に対処できている考え方を是非見に行ってほしいとの要望が寄せられた。実際に説明を伺い、克雪に向かう姿勢は見習うべきことが多岐にわたり大変参考になった。

以上

